

**子どもの成長を支える社会教育の役割
—地域の教育力向上のために—**

(参考事例集)

平成 22 年 7 月 29 日

第 31 期静岡県社会教委員会

はじめに

この事例集では、「人としての成長や自分らしさ、人としての誇りを育む」ためあるいは地域の教育力向上のために、これまで静岡県下の各地域で行われ、かつ本委員会内の議論の中で県民の共通の経験として注目すべきものとして出された事例・提案(アイデア)を紹介している。紹介にあたっては、掲載順を全県的な事例→東部→中部→西部→提案とし、「事業名」をはじめ「事業実施の経緯や目的など(提案の場合は、提案事業の目的など)」「担当者または関係者」「事業プログラム(概要)」「成果と課題」を掲載した。なお「成果と課題」は、本委員会による事業プログラム等の考察や担当者または関係者への聞き取り調査等を経て、本委員会においてまとめたものである。なお、この事例集の性格から、実施年度・参加者数などの細かな情報には、こだわらなかった。

これらの事例等は、今後各地域において、上記のような青少年育成及び地域の教育力向上のために事業が展開される際の参考になれば幸いである。その際には、まずは、県民の皆さん自身に、それぞれの地域の現状を十分把握していただき、その上で、各地域の参考となる事例をこの事例集の中に見いだしていただきたいと委員会としては考えている。報告書本文においては、地域の特性を4種類に分類し、それぞれの特性にあてはまる地域が取り組む方向性を示したが、事例集ではあえてそのような分類を行わなかったのはそのためである。私たちが、自分自身の住んでいる地域の実情や特徴を十分認識した上で、そのような地域であればどのような方法が適切なのかあるいは可能なのかを、この事例集を活用して検討していく、そのような「参考」であることを切に願う次第である。「参考にする」というその作業自体がすでに1つの学習であり、その学習による一人一人の意識の変化が、地域の教育力向上につながることを期待したい。

目 次

全県的な事例	1
○ JFAこころのプロジェクト「夢の教室」	1
○ スポーツ少年団リーダー養成スクール	2
県東部の事例	3
○ 学校支援地域本部事業	3
○ 「長泉イチゴ会」	4
○ PTAとPTA経験者による学校サポート体制	5
○ PTCA「貴船小学校サポーターズクラブ」	6
県中部の事例	
○ 駄菓子やひろば「地球の声」	7
○ 民間教育研究所「まちなびや」	8
○ 「学校応援団プロジェクト」	9
○ 「ふれあいサタデーパーク」	10
○ 宿泊訓練「仲よし学校」	11
県西部の事例	
○ 西南郷地域子ども教室	12
○ 老人クラブと幼稚園児の交流	13
○ 放課後勉強室（外国人児童）	14
○ とみつか未来塾	15
○ 三世代交流事業を通しての地域との連携	16
提案(アイデア)の事例	
○ 祭りだ！みんな集まれ	17
○ 「もちつもたれつお互いが育つしかけ」	18
○ 地域寺子屋	19

全県的な事例

<事業名> JFAこころのプロジェクト「夢の教室」

<事業実施の経緯や目的など>

「子どもたちといっしょに夢を考える」

子どもたちの心身の健全な発達成長を願って、夢先生が子どもたちの夢を応援「いじめや自殺に走らない強い心を持った子どもを育てるのに、サッカー界が手助けすることが出来るはず」 サッカー界が一丸となって子どもたちの健全な心身の成長を後押ししよう、との思いから2007年度からスタートした。

<担当者または関係者>

(財)日本サッカー協会・静岡県教育委員会・(財)静岡県サッカー協会・静岡県スポーツ少年団

<事業プログラム(概要)>

このプロジェクトは子どもたちの精神面の健全な成長に資することに重きを置いたもので、日本代表やJリーガー、なでしこジャパンなどの現役選手やOB選手が「夢先生」となって小学校の教壇に立ち、夢や目標を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さ、フェアプレーや助け合いの精神を育むことを目的としている。

この授業「夢の教室」は主に小学校6・5年生を対象に行い、みんなで体を動かしながら、一つの目標を協力してやり遂げることやルールを守ることの大切さを伝える「ゲームの時間」と、夢先生がこれまでの人生を語りながら挫折を乗り越え、夢を達成してきたエピソードを語る「トークの時間」からなる。

もちろん、子どもたちにも未来をイメージしてもらい、どんな夢を持って歩いていくかを考えてもらう。

2009年度には、静岡県内では50小学校・地区で開かれ、大好評を博している。

<成果と課題>

参加した子どもたちからは、「努力することの大切さ、他人のことも考える大切さが良くわかった」、また「ゲーム遊びから身体を動かす楽しさがわかった」などの意見が寄せられた。

普段の授業と違い、まさに「夢の先生」から話が聞ける、一緒に行動できる体験に大きな喜びと真剣さが理解できる。

課題としては、開催を希望する各県の市町・学校の数に追いつけず、順番待ちの状態なので、その解決策が望まれる。

全県的な事例

<事業名> スポーツ少年団リーダー養成スクール

<事業実施の経緯や目的など>

目的 ー将来の良き指導者へー

指導者とともに、集団が目標とするゴールをめざしてメンバーを一つにまとめ、積極的に集団の活動を推進していく者(リーダー)であり、少年団では指導者と区別し、団員の代表者としてリーダーシップを発揮するリーダーを養成する制度である。

<担当者または関係者>

静岡県スポーツ少年団本部長、静岡県スポーツ少年団認定育成員資格取得指導者

<事業プログラム(概要)>

静岡県の場合は、リーダー資格が3分類されている。

- ・初級ジュニアリーダー(小学5年生～中学生)
- ・ジュニアリーダー(小学5年～中学生)
- ・シニアリーダー(高校生～大学生)

この資格取得のための各リーダースクールが毎年、県内各地域で開催されています。

特に初級ジュニアリーダースクールは、県内3会場で1日コースが開催され、団員からリーダーへの登竜門として多くの子どもたちが少年団の理念から活動までの研修をしている。

ジュニアリーダースクールは、県内1会場で2泊3日コースが開催され、日中の指導訓練から夜は宿泊訓練まで幅広いメニューによって実施している。

シニアリーダースクールは、県内1会場で4泊5日コースが実施され、高度な指導実技訓練等が行われ指導者への道につながっている。

<成果と課題>

成果

単位少年団の団員リーダーとして団をまとめ、指導者の補助的活動を積極的に行っている。特に初級ジュニアリーダーの数は毎年100名以上が誕生し、団員の模範的役割を見せている。

課題

現在の少年団は小学生が中心であり、中学生・高校生の加入率が非常に低いため、シニアリーダーになれる団員が限定されてしまい、限られた少年団(競技)になっている。また、シニアリーダーから指導者になる比率も低く、今後の課題となっている。

<事業名> 学校支援地域本部事業（長泉町立長泉中学校）

<事業実施の経緯や目的など>

学校がより生産性の高い教育活動を行い、教員が子どもと直接向き合う時間を充分確保し充実した教育活動を行うようにするためにも、学校教育にかかわる人的・物的資源を手当てし、外部の力を活用できる仕組みづくりを進めることで学校支援の体制を整備し、学校教育の充実を図る。平成20年度の秋からこの事業を開始した。

<担当者または関係者>

- ①コーディネーターを学校に週3日常駐させる。（学校とボランティアをつなぐ役割）
 - ②既存の長泉中ネットワークの会合を学校支援地域本部実行委員会とする。
- ※長泉中ネットワークのメンバー（主任児童委員、民生委員、補導協議会、保護司会、長中同窓会、教育委員会、花いっぱい倶楽部、コーディネーター、PTA関係者、学校関係者）
- ③ボランティアスタッフ
 - ④事務局はPTA役員からボランティアでお願いしている。

<事業プログラム(概要)>

- ①学習支援ボランティアによる放課後学習（主に数学、英語に理解不足な生徒）
- ②学習支援ボランティアによる授業中取出し指導（特別支援対象生徒）
- ③学習支援ボランティアによる日本語指導（外国籍で日本語がほとんど分からない生徒）
- ④不登校生徒で学校には来るが、教室に入れない生徒の対応ボランティア
- ⑤特別支援対象生徒で、学校には来るが、教室に入れない生徒の対応ボランティア
- ⑥従来実施してきた職場体験新規受入企業の開拓などの業務
- ⑦「長中あったか体験」で地域人材と連携（地域の人材による講座開設、全校生徒が半日受講）

<成果と課題>

- ①地域のボランティアの方々が熱心に学習を支援し、また、生徒もそれに応えようと努力したため、今までには考えられないほど学習意欲が高まってきた。
- ②日本語の読み書きができないブラジル国籍の生徒は、毎日のようにマンツーマンで教えてもらったため、本人はやる気になり生き生きしてきた。
- ③教室に入れないでいる不登校生徒や特別支援対象生徒は特別教室で過ごしている。今までは教師が対応していたが、今ではボランティアのおかげでその時間を授業の教材研究などに使うことができるようになり「とても助かっている」と教師から感謝の声も聞かれるようになってきた。
- ④ボランティア自身、生徒や学校のためになることで充実した気持ちを感じているようである。

<事業名> 「長泉イチゴ会」(駿東郡長泉町)

<事業実施の経緯や目的など>

「長泉イチゴ会」は駿東郡長泉町にある小学校(3校)と中学校(2校)の平成15年度のPTA役員が中心になって、文部科学省の委託事業「静岡県子どもをはぐくむ地域活動推進事業(コンソーシアム)」を受託し、発足した。「イチゴ」は「一期一会(いちご・いちえ)」と「平成15年の15(いちご)」から引用したものである。年間を通して「子ども」を中心とした社会的事業を行っている。「子どもの役割を探す」「励まして発奮させる」「ドラマを創る」「聞こえぬ声を感じさせる」をテーマに様々な事業を展開している。

<担当者または関係者>

保護者・PTA役員(OBを含む)、地域のボランティア、長泉町教育委員会

<事業プログラム(概要)>

- ・ホタル観賞会(場所…谷津区自然観察園、富士湧水池 協力…長泉町教育委員会、しろやま倶楽部、長泉ほたるの会、谷津区グリーンクラブ)
- ・映画上映会(場所…長泉町文化センターベルフォーレ、クリスマスアニメと音楽のつどい「ハッピーバースディ」、「トントンギコギコ図工の時間」)
- ・わんぱく通学合宿(子育てに関わる団体を核に実行委員会を立ち上げ、3小学校の友達と寝食をともにし、お互いの立場を理解し、協力し合い、併せて地域の方々とのコミュニケーションを図る。)
- ・コメコメ・プロジェクト(自然体験を通して、主食である米を作ることによって、感謝の心を養うとともに、食への興味、家族の絆、仲間の大切さを併せて学ぶ。)
- ・土に触れる(感謝の心を育む→夏野菜の栽培、ひまわり迷路の設計)
- ・ハイキング(思いやりの心を育む→富士山五合目)
- ・ひまわり迷路・川遊び(遊びを通して自然に触れる→ひまわり迷路の完成、文字探しゲーム、川遊び、水中スイカ割り)
- ・落花生とサツマイモ(収穫の喜びを味わう→落花生の収穫、サツマイモ掘り、どんぐりテーブル作り)
- ・イベント(協力して手伝う→飲み物の販売、ラーメンの販売)
- ・座学(人づくり懇談会、各学校のPTA活動発表会、長泉地域教育懇話会、食育について考える)

<成果と課題>

「今、どのようなコミュニケーションスタイルが求められているか？」

我々は、自ら楽しみ、自ら動く。

子どもたちが夢中になるきっかけを探し、
我を忘れ、心奪われるような仕掛けを考え、
一人ひとりが、心に残る財産をつかめるよう

心豊かな環境の中、親子で、家族で、友達や仲間たちと、
地域の皆様に支えられながら、共に育ちたいと思います。

平成22年1月30日/長泉イチゴ会

「自然の中で子どもたちが夢中になって取り組むことをやろうって考えています。子どものうちに土に触れ、水と戯れ、風を感じる体験は、創造性、集中力、思いやり…あらゆるものを育成すると考えています。『子どもたちのために』と活動していると、畑を貸してくれる人、野菜の苗を提供してくれる人、地域のいろいろな方が力を貸してくれます。

(イチゴ会3代目代表の浅倉充之氏)

県東部の事例

＜事業名＞PTAとPTA経験者による学校サポート体制（三島市立北中学校）

＜事業実施の経緯や目的など＞

PTA活動で培った仲間の関係を継続させながら、地域の力となって子どもたちを支えていくことを目指す。

＜担当者または関係者＞

三島市立北中学校

北中おやちの会（在校生と卒業生の父親有志）

ユーカリの会（PTAのOB会、北中のシンボルツリーにちなんで命名）

＜事業プログラム(概要)＞

北中おやちの会

環境整備作業協力、夏祭り三島サンバ踊り大会参加生徒の付き添い、ソフトボール部との親善試合、三島市成人式記念駅伝参加、卒業式紅白饅頭配布

ユーカリの会

リサイクルバザー、学区内で開催される「ほたる祭」への協力、学校からの協力依頼に応えられる体制の維持（会員同士の親睦イベント）

＜成果と課題＞

- ・おやちの会、ユーカリの会ともに、学校の推進力として活躍中
- ・両方の会とも、会員拡大が課題である。おやちの会は在校生父親の参加を、ユーカリの会ではPTA経験者以外の母親であっても学校活動に参加する機会を検討中。
- ・学校直属のPTAに比べると地域での認知度が低いので、地道に活動することにより信頼を得ることを目指している。

県東部の事例

<事業名> P T C A 「貴船小学校サポーターズクラブ」(富士宮市立貴船小学校)

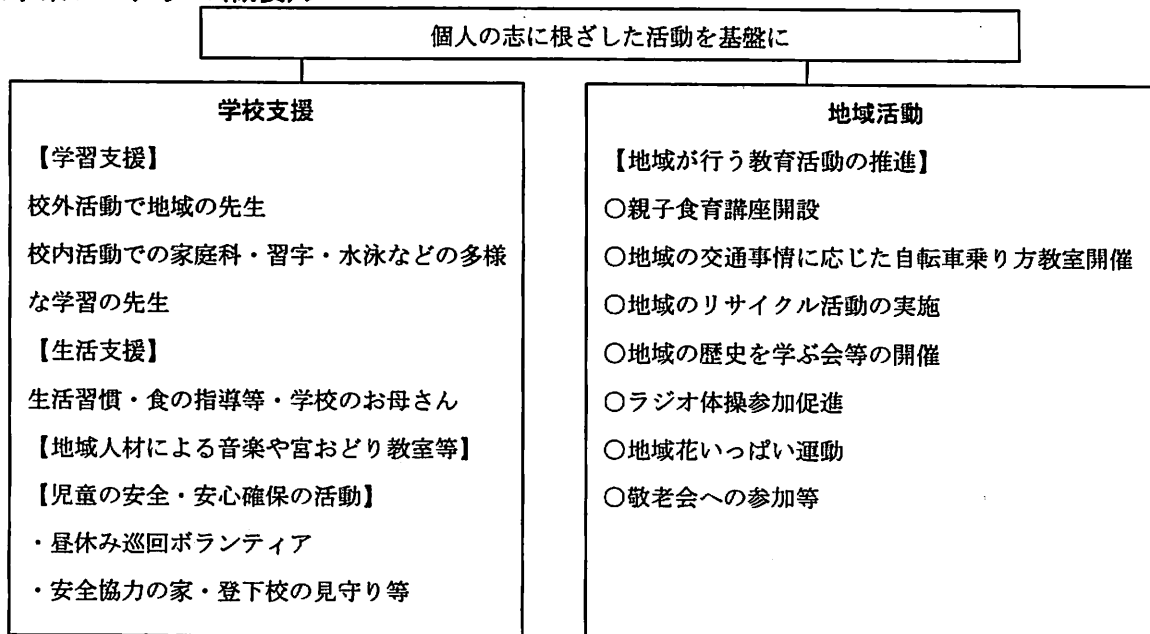
<事業実施の経緯や目的など>

富士宮市立貴船小学校では、P T Aに地域 (Community) の住民が加わった「P T C A」を以前から組織し、「P T C A」を貴船小学校サポーターズクラブと呼び、子どもたちの安全安心で楽しい学校生活を支えてきた。貴船小学校では、文部科学省と静岡県教育委員会の指定を受け「学校支援地域本部」を貴船小学校サポーターズクラブ内に設置した。サポーターズクラブでは、「学校支援」と「地域活動」を大きな柱に活動している。学校支援地域本部は、柱の一つである「学校支援」をより充実させる目的で、設けられた。

<担当者または関係者>

小学校教職員、保護者、コーディネーター、地域のボランティア

<事業プログラム(概要)>



本事業に取り組むにあたり、サポーターズクラブの一員として学校を支えてきた2の方がコーディネーターを務めることになった。コーディネーターは、ほぼ毎日午前中、学校で以下の活動を行っている。

- 学校のニーズを把握し、支援活動を企画する。
- ボランティアの募集や学校とボランティアとの連絡・調整をする。
- ボランティアリーダーとして、ボランティアの中心となる。
- ボランティアの資質向上を図る。
- 通学合宿の企画・運営など、学校外での地域の教育活動にも取り組む。

事業の活動内容

- ・総合的な学習の時間(富士山学習)、習字、英語、図工、家庭科、音楽など授業の中での支援。
- ・図書整備や花壇作りなどの環境整備。
- ・昼休みには、子どもたちの安全確保のための校内巡視。

(成果と課題)

- 地域ボランティアによる「個」が中心の活動から、「組織」として継続性を持った活動に発展している。
- 活動を通して、子どもと地域住民、教職員と地域住民、地域住民同士のつながりがさらに深まってきている。

<p><事業名></p>	<p>駄菓子やひろば「地球の声」(静岡市駿河区)</p>
<p><事業実施の経緯や目的など></p>	<p>国籍や年齢・障害など 違いがあってもみんな仲間 だれでも気軽に立ち寄って、駄菓子やおしゃべり、遊びや読書、 いっしょにふれあい楽しめば、ほら、そこから友だち 一人一人が主役の 駄菓子屋ひろば 以上のようなコンセプトで、地域の気軽なふれあいの場を、自宅の一角で提供している。</p>
<p><担当者または関係者></p>	<p>『地球の声』事務局 代表 増井由美子</p>
<p><事業概要></p>	<p>1、静岡市駿河区宮本町にて、自宅の一角を、週に3日(月・木・土)、地域のふれあいの場に提供している。 2、駄菓子屋の形態でもあるが、実質的には営利を目的としておらず、全ての人が気軽に立ち寄れるふれあいの場となっている。 3、事業内容 ①日本の駄菓子・外国のお菓子の販売 ②日本と外国の遊びの紹介と体験(異世代、異文化交流) ③おしゃべりひろば ④ミニ文庫 ⑤おしゃべり伝言板 異世代 ⑥/異文化談話会、手作り交流会、ミニ異文化交流イベント ⑦広報誌「地球のこえ だより」発行(1回/1ヶ月)</p>
<p><成果></p>	<p>①地域住民の声を聞き集め、共通の話題を提供したり、対応したりすることができる。(例:こどものおこずかい・孫との接し方・いじめ・介護の悩み) ②地域住民の隠れた人材を発掘できる(例:昔の玩具の手作り名人・海外留学生・昔遊びの達人・こどもの特技) ③人と触れ合うことで、参加者が楽しみや生きがいを感じることが出来る。(例:また、行きたい。人に会いたい。話をしたい。伝えたい…という想い) ④家庭内での家族の会話が増える。兄弟の関わりが深くなる。 ⑤顔見知りになり、仲間意識が芽生え、地域で子どもを育てるという意識が高まる。(他人の子どもにも声をかける。異年齢や他の学校の子も同士が関わる) ⑥近隣や通行の人々の、ボランティア活動に対する意識や関心が高まる。(例:近隣企業の方が、通りがかりに声をかけたりサポートしたりしてくれる) ⑦こどもの問題に、保護者と『地球のこえ』で協力することができる。(保護者とスタッフの連携・・・例:こどものお金の使い方について悩む母親からの相談で、協力して子どもを良い方向へ向かわせようという関係ができる) ⑧帰国子女や留学生の話聞き、地域に溶け込む手助けができる。(高校受験・価値観の違いなどの苦労や悩みを聞く)</p>
<p><課題></p>	<p>①地域と連携を効率的にするシステムが出来ていないため、団体個々に行わなければならない。あるいは、仮にシステムがあっても、情報が少ない。(学校・公民館・町内会・子ども会・老人会・PTAなどに個々に説明して理解してもらうので、手間がかかる。) ②ボランティア活動が、理解されにくい。(ボランティア団体だと、営利目的や宗教がらみ・・・など、疑われることもある。児童クラブはそのようなことはないと思うが) ③資金的に大変。(今年度は、助成金申請をして通ったが、毎年そうしてやっていくのは大変。継続していくための方法を模索中) ④人材確保の問題。ボランティアのため、活動の強制ができず、人数を確実に確保することが難しい。特に、初年度で、参加者数や活動内容も試行錯誤のため、必要人数も把握しにくい。このような活動を始める個人や団体のサポートシステムがあるといい。</p>

<事業名> 民間教育研究所「まちなびや」(静岡市葵区長沼)

<事業実施の経緯や目的など>

静岡市葵区長沼の商店街の一角に「まちなびや」はある。「まちなびや」の代表を務める弓削幸恵氏は「今の子どもたちはゲーム機での遊びや習い事・塾に通う時間が増え、大人が作った枠組みの中で過ごすことが多くなっている。学校での勉強はもちろん大切ですが、「学校から離れ、自分たちで自由に考えて行動する『時間・空間・仲間』を確保することが子どもの心身の成長には欠かせません」と考え、「まちなびや」に取り組んでいる。

<担当者または関係者> 「まちなびや」職員、地域のボランティア等

<事業プログラム(概要)>

「まちなびや」は、子どもが学校の外に広がる生活圏(小学校区をイメージ)のいろいろな「ひと・もの・こと」に興味や関心を持ち、地域の人と関わりを持ちながら、遊んだり、学んだり、地域のために何かできることをすることをサポートする。子どもはいろいろな人と接することや自分で判断して行動することを通して、内的成長を遂げる。大人の立場からの「子育て」ばかりに目を向けるのではなく、子どもの側からの「子育て」の視点を大切にしていく。

○学区のお宝探し～学区の魅力発見・地域に息づく子ども文化の掘り起こし

- ・学区内ウォーク
- ・地域の大人への聞き取り、アンケート調査
- ・子ども向けクイズの作成

○子どもの居場所作り

- ・駄菓子屋の運営…事務所の一角に駄菓子屋コーナーを設け、近隣の中学生在がボランティアで店員を勤める。駄菓子屋には、子どもだけで来るようお願いしている(何をかうか、自分で決めることは、自立への第一歩)。
- ・まめしごと…子どもが自分の好きなことやできることを生かして地域を良くする取り組みを「まめしごと」と呼び応援する。「まめしごと」へのお駄賃として近隣で使える金券を発行する。子どもの意欲的な活動に応える点と、訪れた店で地域の人との交流を深める意義がある。

○人の輪づくり

- ・地域のことや教科の知識を楽しく学ぶ教材開発…地域のネタや教科学習に関わるクイズを、くじやガチャポンのかたちで駄菓子屋にて販売する。(1回20円、クイズに正解すると20円が戻ってくる。)
- ・だがしや楽校…大人も子どもも、縁日の屋台のように、自分の趣味や特技を生かした小さなお店を出し、楽しい遊びを作り出す。(駄菓子屋、牛乳キャップ遊び、紙芝居、めんこ、こま回し、ビー玉遊び、科学遊び等)

(成果と課題)

地域の方々と関わっていくと、地域の宝を大切にしたいと願っている方が多いと感じます。皆さんの願いを子どもの放課後の充実と結びつけて実現していくことが活動の推進力にもなり、新たな活動の場の開拓にもつながっています。

何よりも励みになるのは、子どもの変容です。駄菓子屋に通いはじめてから、お金の扱いが雑で性格も粗暴な子どもがあいさつをしっかりとるようになったり、学区から離れた私立の学校に通う子どもが、学区内の学校の子どもの付き合いを深め、一緒に遊ぶようになったりしたのを見ると、私たちもうれしくなります。

「まちなびや」代表弓削幸恵氏

＜事業名＞ 「学校応援団プロジェクト」(静岡市立横内小学校)

＜事業実施の経緯や目的など＞

静岡市は、学校支援地域本部事業を「学校応援団プロジェクト」として独自に展開し、平成20年度は3小学校を研究校に指定し、21年度はモデル校10小学校を加えた。横内小学校は研究校の一つである。3人の子どもが同校を卒業し、PTA役員を務めた経験のある海野典子さんが学校に配置された地域コーディネーターを担当している。1日4時間週5日間程度勤務し、学校側からの要請に応え、地域との橋渡し役を担っている。

教員から出された依頼書をもとに、地域の学習ボランティアのファイルや人脈をたどりながら適材を探し出し、時間調整を行っている。

＜担当者または関係者＞

静岡市教育委員会、小学校教職員、地域コーディネーター、地域のボランティア

＜事業プログラム(概要)＞

環境整備面→花壇の世話、図書の整備等

安全面→登下校の見守り、校外活動の引率補助等

学習面→総合学習のゲストティーチャー、読み聞かせ、クラブ活動、家庭科調理実習やミシンの学習支援等

平成11年頃からずっと続いている「読み聞かせ」。低・中学年は月に2回、高学年は月1回、地域の方やPTAの方たちが、朝の読書タイムに「読み聞かせ」をしてくださっています。数年前から活動している『おはなしいずみ』というメンバーの方たちは、どんな本を読んだらいいか事前に打ち合わせをして決めているそうです。

また、今年は本のバーコード化による入力作業があり、本の修理作業とともに、主に月曜日の午前中に『図書の応援団』の方々が活動しています。

図書室の入り口には、手作りのとても可愛い掲示物が飾られています。

(横内小学校 学校応援団だより 第7号より)

2月5日(木)の5・6時間目、6年生が、「総合的な学習」で「生きる」をテーマに1年間のまとめとして、体験活動をしました。人のために役にたつことをしたいというグループは、清水公園の清掃と太田町商店街の清掃や花壇の手入れをさせてもらいました。また、自分の生き方を見つめていく中で興味・関心のあることを体験したいグループは、子育て支援センターで幼児をお世話させてもらったり、グルーミングスクールで犬の世話をさせてもらったり、環境に関心のあるグループは青木神社に花の苗を植えさせてもらいました。

どこの場所も活動を快く受け入れてくださり、地域の方々のご協力を得ながら、子どもたちはいろいろな体験ができました。受け入れ・ご協力ありがとうございました。

(横内小学校 学校応援団だより 第10号より)

＜成果と課題＞

○地域コーディネーターが総合学習の学習ボランティア(講師)の依頼及び時間調整等を担当することにより、多忙化する教員の負担軽減となる。

○幅広い分野の人々が学校に入るにより地域に開かれた学校づくりにつながる。

◆課題・・・短時間の打ち合わせの中で、招聘したボランティアが、どこまで教員のねらいや児童の思いに沿った活動や支援ができるか。

県中部の事例

＜事業名＞ 「ふれあいサタデーパーク」（藤枝市田沼地区）

＜事業実施の経緯や目的など＞

田園地帯であったが、近年、新しいアパート・マンションの建設が進み、人口が急増している地域である。流入した子育て世代の住民は地域とのつながりがなく、子育てに不安を抱えている。流入した親世代はそれぞれが孤立して子育てに取り組み、新興住宅地に建設された田沼南公園はほとんど利用されず閑散としていた。そこで、地域住民の杉本卓也氏は地域住民に呼びかけ、毎月第2、第4土曜日に「ふれあいサタデーパーク」と銘打ち、子どもたちの居場所作りと地域と家庭を結びつけるイベントを開催した。

＜担当者または関係者＞ 地域住民（ボランティア）、藤枝市教育委員会（後援）

＜事業プログラム(概要)＞

最初は、杉本氏自らがコーディネーターとなり、地域住民を講師に迎え、「田植え体験」「どろんこ遊び」「うなぎつかみ取り体験」「豆まき大会」「収穫祭」等の子どもも大人も参加できるイベントを企画した。初回企画の「わら細工教室」親子1組の参加しかなかったが、次回企画は10名、その次は20名とジワジワ増えていった。興味のある人は自然に近づいてくる。継続することが何より大切であると杉本氏の弁である。また、広報は「チラシ」「サポーター通信」で行った。ボランティアで講師を務めてくれる方々や協力者の所属意識維持のためには「サポーター通信」は重要である。現在は藤枝市教育委員会の後援を得て、各活動には、30～100名程の参加がある。

年間活動計画（平成20年度・・・主なイベントを紹介すると・・・）

月日	活動内容	会場
4/26	スタッフ総会 ・当面の活動と新年度の活動「よく遊び・よく学べ」についての検討と協議	田沼南公会堂
5/10	よく学び・よく遊べ① ・算数や数学の学習が楽しくなる—復習を中心とした基礎作り— ・遊びを見つけて楽しく遊ぼう—友達をいっぱい作ろう— ・お話の会—読み聞かせグループ「一休さん」による活動— ・囲碁、将棋	田沼南公会堂
5/24	農業体験～田植えとドロンコ遊び～ ・土に直接触れながら土と親しむ ・稲に関わるお話や苗の植え方の学習と田植えの実習	田んぼ（借用地）
6/14	農業体験～さつまいもの苗植え～ ・土を耕し、皆で協力して植えるところをつくる。・つるの挿し方についてのお話と実習	畑（借用地）
7/12	走力アップ —基礎を学べば君も早く走れるよ— ・藤枝市陸上教室指導員、増田博之	田沼南公園
11/15	歴史探訪～田沼街道てくてく道中～ ・みんなで歩いてみよう ・江戸時代にタイムスリップ	田沼街道
2/7	節分 豆まき大会 ～年男・年女による豆まき～ ・鬼ごっこ/ドッジボール ・静岡県レクリエーション協会 合月なお子指導員によるコミュニケーション活動	駅南公園
2/28	よく学び・よく遊べ⑩ ・学習活動—宿題や各自の学習に取り組む— ・ゲーム・スポーツなど—友達をいっぱい作ろう— ・お話の会—読み聞かせ・音楽活動— ・囲碁、将棋	田沼南公会堂

県中部の事例

<事業名> 宿泊訓練「仲よし学校」(牧之原市立坂部小学校 通学合宿)

<事業実施の経緯や目的など>

牧之原市立坂部小学校の宿泊訓練「仲よし学校」は、PTAが主体となり、28回続いている伝統行事である。500年以上の歴史を誇る由緒ある寺院「石雲院」で開催される。寺での生活を通し、希薄になりがちな児童同士や、地域とのつながりを深めるのが狙いである。全児童108人のうち、半数以上の58人が参加している。片道約3キロある学校まで登下校し、一汁一菜の質素な食事をして、テレビやゲームのないお寺の本堂で、午前5時半起床、午後9時就寝の規則正しい生活をしている。

<担当者または関係者>

主催：坂部小学校父母と先生の会 共催：坂部小学校 後援：坂部区(助成金交付)、坂部区老人クラブ、牧之原市・牧之原市教育委員会 宿泊場所：龍門山「石雲院」(高尾山)

<事業プログラム(概要)>

①目的

- ・異年齢集団を生活の基盤とすることで、基本的な生活習慣や望ましい人間関係を育てる。
- ・家を離れて集団生活をするを通して、家庭のありがたさ、友達のよさを実感させるとともに、一人一役での活動を通して協力性と責任感を育てる。
- ・進んで地域の大人とかかわり、また、地域の歴史・文化についての講座を受けることを通して、自分たちの郷土を愛する心を育てる。
- ・PTA、老人会、地域が一体となって子供を育てようとする人的環境づくりを推進する。

②開催期間

平成21年10月13日(火)～10月17日(土) 4泊5日

③日程

第1日目	午前 PTA役員・参加保護者(事前準備)	午後 開校式、オリエンテーション、講話
第2日目	高尾山から通学する。	
～	仲よし時間	
第4日目	縦割り班毎の計画による活動(学習や遊び)	仲よし活動 講話、お茶を知ろう、お楽しみ会、ナイトウォークラリー 他
第5日目	午前 PTA役員・参加保護者(片付け、清掃)	閉校式

④持ち物

学用品及び着替えや毛布等の生活用品等

⑤留意事項

- ・宿泊場所では、PTA役員、学校職員が常時3名以上ついて、児童の生活上の安全に万全を期し、指導にあたる。
- ・病院等との連携を密にして、緊急事態への対応を図る。
- ・児童の自主性を重んじながら、場をわきまえた規則正しい生活を心掛けさせる。(あいさつ・時間を守ること・本堂での過ごし方・食事のマナーや片づけ等)
- ・仲よし学級の精神である「感謝の心、思いやりの心、がまんの心」で過ごせるよう、PTA役員が中心となって児童の指導にあたり、身の回りのことは児童自身でできるよう指導する。

<p><事業名></p>	<p>西南郷地域子ども教室（掛川市）</p>
<p><事業実施の経緯や目的など></p>	<p>西南郷地域の子どもたちに、放課後・週末や長期休業中に西南郷地域生涯学習センター等を活用して、安全で健やかな子どもの居場所づくりを推進する。</p>
<p><担当者または関係者></p>	<p>〈参加対象〉○西南郷地域に居住し掛川市立中央小学校に在籍する児童と、ボランティアとして参加を希望する掛川市立西中学校生徒 〈運営組織〉○西南郷地域生涯学習センター「子ども教室部」部員 9名 ※初年度は「子ども教室立ち上げ委員会」のメンバー7名 ○豊かな経験を持つ地域の方に学習アドバイザーや安全管理を依頼する。</p>
<p><事業プログラム(概要)></p>	<p>〈平日：水曜日午後〉 1 自由遊び、学習（宿題）（14:30～15:30） 2 グループ遊び（15:30～16:15） グループ活動（囲碁・将棋・オセロ、軽スポーツ、室内遊び等）、体験活動、作品づくり等 3 全体会（16:15～16:30）片付け・掃除・連絡 〈土曜日や長期休暇〉 地域探検、夏秋の里山探検、料理教室、茶道教室、親子活動、工作づくり、夏休み自由研究等</p>
<p><成果と課題></p>	<p>○ 教室での活動をきっかけに子どもたちが地域で積極的に関わり、学年を越えて豊かに活動する様子がみられるようになった。 ○ 地域の子どもたちやその保護者と指導者との交流が深まり、地域での信頼関係が生まれた。 ○ 教室の活動で作成した作品を学習センターの文化祭に出展し、活動の成果を示す場ができると共に地域の方に教室についての関心を高めることになった。 ○ 夏休み中は、中学生がボランティアとして参加したことで異年齢集団での交流の枠がひろがるとともに中学生にとっても活躍の場となった。 ○ 教室で重点をおいて指導してきた「あいさつ」「掃除・片付け」「話を聞く態度」が身につき、学校でも元気に活動できるようになった子が増えた。 ◇ 学校と協力し、外国籍児童や地域の行事等への参加に消極的な家庭の児童も教室に参加させ、地域との関わりの希薄な児童とその保護者が地域と交流を深める工夫をしていきたい。</p>

<事業名> 老人クラブと幼稚園児の交流（和老会・浜松市立赤佐幼稚園）

<事業実施の経緯や目的など>

毎年老人クラブ「和老会」から幼稚園に、「昔の遊びを一緒にしましょう」との声掛けがあり、交流活動を続けている。

○地域の幼稚園に出掛け、昔の遊びを伝え、一緒に遊びを楽しむ。

○地域の子どもとの交流を図り、明るく元気な地域づくりを推進する。

<担当者または関係者>

浜松市浜北区赤佐4区老人クラブ「和老会」

<事業プログラム（概要）>

平成21年度概要

1 期 日 平成21年10月23日（金）10:00～11:30

2 会 場 浜松市立赤佐幼稚園

3 参加者 浜松市浜北区赤佐4区老人クラブ「和老会」15名・幼稚園児62名

4 活動内容

○幼稚園児に自己紹介および伝承遊びを紹介する。

・こままわし ・あやとり ・紙飛行機作り

・折り紙遊び ・缶積み遊び ・風車

・紙風船 等

○一緒に健康体操

○一緒に昔から伝わる遊びを楽しむ。



「紙風船遊び」

（成果と課題）

- ・ 核家族化が進み、日ごろの生活の中で高齢者の方とのかかわりが少ない子どももいる。地域に住む高齢者の方からの積極的な交流の機会の提供により、共に過ごす中で笑顔が広がり、親しみをもって遊ぶことができた。
- ・ 風車の羽の中心を大豆で止める、折り紙のこまなど工夫した教材で子どもたちは夢中になり、高齢者の方の技に愛情を感じ取り、伝統文化を受け継ぐ楽しい体験の場となった。その後も幼児が自分たちの遊びの中に取り入れ、遊びが広がりをみせた。
- ・ 幼児と触れ合うことが高齢者の方の生きがいともなっている。交流により、あいさつを交わすつながりができている。
- ・ 老人クラブ等地域の団体が幼稚園、保育所等に積極的にかかわり、持っている教育力を生かした幼児との交流を進めていくことが望まれる。

<事業名> 放課後勉強室（外国人児童） （浜松市立遠州浜小学校）

<事業実施の経緯や目的など>

小学校の全児童数に対して四分の一弱が外国籍児童であったため、外国籍児童の学習支援・心の安定などを目的に週2回勉強室を開催することにした。

<担当者または関係者>

遠州浜小学校教員・外国人児童生徒支援員・にほんごNPO・地域ボランティア（現在30人前後）

<事業プログラム(概要)>

言葉の問題等で学習についていけない、又は中途編入のため日本の学習内容が理解できない外国人児童のために、週2回放課後の時間を利用して部活の一環として学校主導で勉強会を実施した。当初は学校職員とNPOでやっていたが、次第に口コミで地域の方がボランティア登録してくれるようになり、子どもたちに一対一で支援することができた。授業の中で理解しきれなかった部分の補充、主に漢字・読解・計算（九九）などを勉強し、本読みを聞いてもらったりした。

<成果と課題>

- ・家庭では保護者が教えるのが困難な学習（漢字・九九・本読みなど）を補うことができ、子どもたちの学力が教科によっては飛躍的に伸びた。
- ・仕事に忙しい保護者に代わって近所の大人が親身になって話を聞いてくれることにより、子どもたちの心が安定し、楽しく学校生活を送れるようになった。
- ・家では言葉使いや日本のルールなどのしつけを行うのが困難な場合が多いが、ボランティアの方が「そんな言葉づかいはいけないよ」など教えてくれるようになった。
- ・地域の公園などでも子どもたちに声をかけてくれるようになり、ゴミ出しのルールが守られていないことに関しても「外国人とは限らない。日本人でも守れない人はいる」という視点で話をしてくれる人も出て、地域の多文化共生にも一役買ったのではないかと感じた。地域の外国人と日本人が、互いを身近に感じることができる一助になりうる。
- ・課題は、継続して放課後勉強室のような支援を続けられる体制を維持するということである。遠州浜小学校では、ボランティアの方々と学校職員・NPOの間で合同研修会や話し合いの時間を持った。そこで支援の方向性や成果を確かめられたことで、ボランティアや学校職員のモチベーション維持につながるようになった。

県西部の事例

<事業名>	とみつか未来塾（浜松市）
<事業実施の経緯や目的など>	2000年より、浜松市富塚椎の木谷に田畑を借りて農業体験ができる場作りに取り組んでいる。子どもの健全育成と地域の交流を図ることが目的である。
<担当者または関係者>	代表 斉藤育夫 後援 浜松市教育委員会 浜松市河川課 浜松市まちづくり課 浜松市社会福祉協議会 浜松市富塚地区社会福祉協議会
<事業プログラム(概要)>	<ul style="list-style-type: none">・川のゴミ拾い、水質調査、生き物探し、ホタル観察会・昔ながらの米作り（田おこし、田植え、カカシ作り、稲刈り、脱穀）・さつまいも、ソバ、さとうきび作り・茶摘み、手もみ・味噌作り・収穫した米でおにぎり作り、餅つき 活動は月1～2回、土日に行う。地元ボランティアの大人と子どもが中心になって活動している。
<成果と課題>	「次世代を担う子どもたちが都市の中の貴重な自然、緑とふれあい、ふるさとの里山風景を大切に作る心を育てている」として、平成18年に県から第19回都市景観賞を受賞。

<事業名> 三世代交流事業を通しての地域との連携（浜松市立伊目小学校）

<事業実施の経緯や目的など>

伊目小学区には自治会が一つなので、地域をあげて学校に大変協力的である。また、学校に対する期待も大きい。「地域の子どもは地域で育てる」「学校とPTAと地域が連携して子どもを育てる」という目的のもと、従来から行ってきた活動である。

<担当者または関係者>

浜松市立伊目小学校PTA

明るい伊目地区を作る会（子供会、敬老会、体育推進委員、祭り組、民生委員等自治会代表者、PTA役員、学校評議員、家庭教育講座代表、小学校、幼稚園との連携組織）

<事業プログラム(概要)>

1. 生き生き学校 浜名湖を舞台に、一泊二日で、遠泳・いかだ遊び・学校宿泊・老人会との交流を行う
2. 伊目大運動会 小学校・幼稚園・自治会の合同運動会
3. 伊目地区納涼祭・子ども祭 子どもたちが、生き生き学校で老人会に教わった盆踊りを披露 子ども祭りでは、祭り組が劇を披露
4. 門松作り 地域の植木屋・老人会の協力で、6年生が高さ3mの門松を作る
5. 伊目地区マラソン大会 幼稚園児とその保護者、小学生、自治会員が参加 終了後は炊き出しで交流を深める
6. 伊目っ子集会 小学生の学習発表会兼地域の文化祭 小学生が地域の方々に感謝の気持ちを伝える「ありがとう集会」
7. 親子凧揚げ大会 家庭または「親子凧作り教室」作った凧を冬季の田んぼで揚げる

<成果と課題>

どの活動も、地域とPTAの協力で、よいふれあいの機会となっている。

引き続き、協力者の確保に心がけると共に、地元出身でない方々にも、「自分たちの地域とそこにある大切な学校と子どもたち」という意識を持ってもらえるように、協力を求めることが必要である。

提案（アイデア）の事例

<事業名> 祭りだ！みんな集まれ

<提案事業の目的など>

現代の情報化社会の発展は、日本の生活文化の画一化を進めてきた。そのために伝統的な生活文化は次第に失われ、地域社会の崩壊も招いてきた。

一方で、ふるさとの貴重な文化遺産を継承していこうという機運も盛り上がっている。

静岡県内には数多くの祭りや芸能、伝統的な民俗行事がある。祭りなどは大人も子どもも一緒になって取り組むことで、地域の連帯感が生まれる。あらためて祭りや伝統行事を「地域の教育力」として見直してもいいのではないかと。

<担当者または関係者>

各地域の祭り保存会、自治会、子ども会、老人クラブなど

<事業プログラム(概要)>

県内には、長い伝統のある、「三島しゃぎり」、静岡浅間神社の「稚児舞楽」、掛川市横須賀地区の「三熊野神社大祭」、浜松まつりなどをはじめとして多くの祭りがある。三番叟、神楽、田楽、念仏など子どもたちの参加する民俗芸能も各地で行われている。

こうした祭り、芸能は子どもたちにとって楽しさと同時に、準備の大変さ、練習の厳しさや達成感を味わうことが出来る。学校では決して味わうことのできない上下関係や仲間との一体感も経験する。ぜひ、こうした地域にある文化を継承してほしいし、地域コミュニティ再生の原動力になってほしい。

新興住宅地区などで、伝統的な祭りのない地域でも、自治会や子ども会が中心となって、自分たちの「地域の祭り」を作り上げたらどうか。普段、地域の行事にあまり参加しないような、若い人たちのエネルギーを活用して、新たな伝統を築いていくことも勧めたい。

<課題>

新しい祭りを作り上げていくためには、しっかりと企画を練り、多くの人を引っ張っていけるリーダーの存在が欠かせない。また、地域内の企業や商店などのスポンサーの確保も必要となる。

<事業名> 「もちつもたれつお互いが育つしかけ」

<提案事業の目的など>

子どもを育てる地域社会は同時に子どもに育てられる社会でもある。そこに住む人が子どもから大人まで「人を人としてお互いに共感」しながら暮らしていく方法があるはずである。そのひとつに大人が子どもから学ぶ事例として、NPO法人を中心としたネットワークを作りながら子どもを育て、同時に大人も助けられる仕掛けとして「もちつもたれつ隊」を企画した。地域で今後ますます多くなると予想されるのが高齢者世帯の独り暮らしである。健康な間は自立しながら生活をしていきたいと誰しもが願う。しかし、同時にさまざまな不安も生じてくる。時には生活のサポートを頼みたいこともある。もしものときには誰かに連絡をしたい等、応援を求めたいこともたくさん生じる。そこでこれらの応援を子どもの見回り隊が声を掛けたり、必要な高齢者には買い物のサポートをしたりしていく仕掛けである。教育とは、大人が子どもに何かをすることだけではなく、子どもが大人を支援することで子どもが自ら育っていくこともできるのではないだろうか。子どもを育てる社会のありかたの一つとして、大人が子どもから助けられる仕組みを作ることも必要に思う。

<担当者または関係者>

地域 NPO 法人、子ども会、自治会組織、放課後子どもクラブ、民生委員、高齢者組織、

<事業プログラム(概要)>

高齢者を助けるこども隊として、子どもにできることのリストを例として挙げる。(子どもからアイデアを出してもらいながらプログラムの作成を行う)

電話隊：学校から帰ってきたら独り暮らしの高齢者に電話をして状況を尋ねる。

高齢者の健康・安全管理への役割ができること、お互いのコミュニケーションにもなる。

買い物隊：親との買い物時、担当する高齢者の買い物を聞き、必要な買い物をしてくる。子どもの自立につながる。

一緒に食事隊：NPO活動の一つとして、子どもが食について学び活動するだけでなく、高齢者への食事の準備をし、食卓を整え、一緒に食事ができるような場の提供をする活動を作り上げていく。人への食事を提供し喜んで食べてもらうことができた時の喜びを子どもが味わうことは、「食べる」ことの意味を学ぶことでもある。

一緒に暮らし隊：核家族で共働きも多い今、放課後子どもだけで過ごす時間を地域の高齢者と暮らす時間に変えていくことで、両者の間にコミュニケーションが成り立つ。子どもにとっては、高齢者から学ぶことは多い。高齢者にとっても子育てから得ることも多いと思われ、お互いのメリットが生じ、お互いが育てられていく。

これらのプログラムは、地域に存在するNPOが中心となり、従来の組織と連携しながら「しかけ」をつくることで、子どもが主役となりお互いが育つ仕組みが出来上がってくると思われる。

<成果と課題>

他人とのかかわりの中で、子どもに責任ある役割を持たせることは、こどもの自立を育てていく。この仕組みの中で大人に必要なことは、放課後の時間、塾やおけいこ事に使う時間から、子どもがこの活動をすることのできる時間にスライドさせる、大人にとってのゆとりある思考である。

提案（アイデア）の事例

<事業名>

地域寺子屋

<提案事業の目的など>

青少年の人格形成において、様々な価値観を有する人と接したり、様々な体験をしたりする事をする事は、きわめて有効です。しかし、多くの青少年育成団体や学校の部活動は、一時的な参加を認めていないケースが多い。そこで、地域の社会教育団体や、青少年育成団体、学校の部活動等を、好きなときに好きなだけ体験できるようなシステムを構築する。

<担当者または関係者>

- ①コーディネーター担当者
- ②学校の部活動関係者
- ③地域の社会教育団体
- ④地域の青少年育成団体

<事業概要>

- 1 ネットワークに加盟する社会教育団体、青少年育成団体、学校の部活動等は、体験できるプログラムを、コーディネーターに報告する。
- 2 コーディネーターは、そのプログラムをまとめ、生徒児童に提供する。
- 3 体験を希望する生徒児童は、その団体に申し込み、体験をする。

注意点

- ・費用や保険料等は、参加者が応分に負担する。
- ・組織、団体、部活動に正式加盟するのではないので、活動内容に制約があることを、参加者は承知しなければならない。
- ・受け入れ団体は、継続参加を強制できない。